

独立行政法人農業生物資源研究所の平成24事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成24年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	--

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成24年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。
----------	--

3. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	24事業年度評価における主な指摘事項	平成25及び26年度の運営、予算への反映状況
業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	(経費の削減) 複数年契約の活用等については、農業関係研究開発4法人による、紙類の共同調達に取り組んでいるが、複数年契約などの活用による、さらなる経費削減の取組が期待される。	農業関係研究開発4法人の共同調達については、25年度は紙類に加え健康診断業務を実施した。26年度は清掃業務、警備業務及びエレベータ等保守点検業務を実施することとし、生物研においては清掃業務を担当・実施した。 複数年契約については、26年度より施設保守管理業務及びガス契約を複数年契約とした。
	(研究資源の効率的利用及び充実・高度化) 外部研究資金の獲得については、委託研究予算規模が減少していることから、さらなる獲得に向けた取組が期待される。	運営費交付金が毎年度減少する一方、燃料価格上昇などの外部要因による運転経費への負担増が続いており、経費節減の努力を続けているものの交付金研究費の増加は見込めない状況である。また、主要な外部研究資金である政府からの受託研究費についても25年度は2割程度縮減しており、競争的資金を獲得する必要性が益々高まっている状況である点をご指摘のとおりである。 これまでも研究者の自主的な努力に頼るだけでなく、競争的資金獲得を意図した研究テーマに重点研究費を配分するなど支援を行ってきたところであるが、今後はさらに、大学などでの先進的な取り組み（リサーチ・アドミニストレーターの配置など）を参考に、戦略的に競争的資金を獲得する仕組

	<p>オープンラボについては、ホームページでの研究実績の紹介など新たな取組もみられるが、利活用の促進に向けて継続的な取組が期待される。</p>	<p>みの強化を図ってまいりたい。</p> <p>オープンラボの運営に関しては、引き続き、ホームページ等を活用し、生物研オープンラボをアピールすることにより、利用促進を図ってまいりたい。また、ラボ開設から数年を経過していることから、効率的運用の観点から検討を進め、提供機器の整理を実施し運用コストを削減したところである。</p>
<p>国民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p>	<p>(研究成果の公表、普及の促進) 研究成果のプレスリリースは、目標を上回ったが、国内特許出願は目標を下回っている。</p>	<p>国内特許出願目標の達成を図るため、研究者に対し知的財産の取得を啓すための知財専門家による助言等を積極的に進めてまいりたい。また、知財マネジメントとして、特許等の出願に際し、引き続き研究の初期段階から相談・助言などを行ってまいりたい。</p>
<p>予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画</p>	<p>自己収入の確保については、知的財産収入等が減少していることから、増加に向けた取組が期待される。</p>	<p>PR資料やPRポスターを使ったPR活動により、民間等における利活用を促進して知的財産収入の増加に努め、25年度は1,088千円の増収となった。</p>
<p>その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項等</p>	<p>(法令遵守など内部統制の充実・強化) 規制物質等の適切な管理については、引き続き、徹底した取組が期待される。</p>	<p>労働安全衛生法規制対象物質及び消防法の危険物管理について説明会、教育訓練等を通じて適正管理の徹底に努めている。</p>
	<p>(環境対策・安全管理の推進) 24年度においても軽度ではあるものの労働災害が発生していることから、引き続き発生防止に向けた取組が期待される。</p>	<p>労働災害の未然防止のための行動として「ヒヤリ・ハット報告運動」を実施し、報告のあった事例はグループウェアに掲載し、職員間で情報共有を行っている。 また、労働災害の発生状況・発生原因や労働災害防止に関する情報をグループウェア等で周知し注意喚起を行い、労働災害の発生防止に努めているところである。</p>